



医学・看護学教育通信

第5号
発行 2007.4.2

佐賀大学医学部 教育広報部会

はじめに

前号(4号)から、約1ヶ月もの期間をあけての発行となります。この間、学年度末であり、各科目の試験、共用試験、進級判定、医師国家試験など、教育的行事が目白押しでした。

また、今後の教育改善のために行われてきた様々な議論がまとめられたり、新たに検討すべき問題点が浮上してきたりした時期でもありました。本号では、それらのいくつかを紹介したいと思います。

第101回医師国家試験の合格発表

3月29日に、第101回医師国家試験の合格発表がありました。本学受験者は102名、合格者は95名、合格率は93.1%でした。全国平均の87.9%を5.2%上回っております。2001年度入学者に限ると86名中85名合格で合格率98.8%という好成績でした。

本院関連のプログラムでの研修予定者は37名中35名が合格しました。その中で、1年目を本院でスタートする者は、31名中30名の合格でした。昨年より非常に合格率が高く喜んでおります。

4月2日(月)からオリエンテーションを開始し、4月16日(月)が辞令交付となります。新社会人としての自覚を持ち、新米医師として研鑽に励むよう全体オリエンテーションでは指導したいと思います。研修医は不慣れなためいろいろご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、皆様のご指導、ご鞭撻をよろしく願います。(卒後臨床研修センター・江村正)

医学科教育カリキュラム策定委員会・中間報告

3月26日に、医学科教育カリキュラム策定委員会(委員長:岩坂剛教授)の中間報告が公表されました。

📌 佐賀大学医学部TOP > 教職員 > 教育関連

http://www.med.saga-u.ac.jp/saga-med_only/staff/910-04-01wg.pdf

このうちPhase Ⅰ・臨床実習については、すでに発表されていたものであり、H19年度から実施されます。Phase ⅡからPhase Ⅲについての改革は、H20年度入学の学生からのものであり、現在の在校生に適用されるもので

はありません。

この中間報告は、本年夏から秋にかけて最終報告へとまとめられ、『学習要項』の作成へと具体化されていきます。教職員、学生のみなさんの意見を広く反映させるために、忌憚なく意見をお寄せください。

評価(試験)について

上記のカリキュラム改革と並行して、評価についての検討も教育委員会で進められています。学生を動機付け、学習行動を規定するものとして、評価の方法や内容の影響が非常に大きいことは、広く知られています。そのため、毎週のように試験を実施したり、厳しい合否判定・進級判定基準を設けて学生に学習を促している大学もみられます。“国家試験予備校”への道をたどることが佐賀大学医学部の使命とは思えませんが、本学の試験の回数や内容(量)は、他大学医学部と比較して目だたって少ないことは確かです。カリキュラム改革とあわせて、評価のあり方を議論すべき時期に来ていると考えます。

そこで教育委員会では、各科目の試験の方法、合否判定、そして2年次、4年次の進級判定について、次のような視点から検討を進めています。

試験の内容や方法を、各教科の目標・内容に即して、信頼性・妥当性の高いものにすること。

筆記試験の点数だけでなく、学習のプロセスや態度を、合否判定に加味すること(特にPhase Ⅱ)。

教科ごとの試験について、**Phase Ⅱ**を含めた合否判定基準を明示し、再試の受験資格についても指針を設けること。

進級判定の基準をより明確に示すこと。

知識の習得の度合いに関する絶対評価は、共用試験、国家試験として実施されるわけですし、それは医師として必要な能力のごく一部でしかないのですから、医学部での各教科の評価は、そこでは測定できない側面に、よりウェイトをおくべきなのかもしれません。議論の経過は、本「通信」でも提示していきたいと思えます。

教育広報部会

📌 小田康友、池田豊子、市場正良、吉田和代、江村正、藤田君支、田崎法人

📌 ご意見をお待ちしています (oday@cc.saga-u.ac.jp)。